

# 県産農林水産物を通じた食育推進について

## (①ふくしま旬の食材等活用推進事業)

農産物流通課

### 1.目的

#### ①地産地消の推進

伝統野菜や地元の特産品など旬の県産食材を使ったメニューを学校等の給食施設が考案し、その食材費を支援することによって県産農林水産物の消費拡大を図り、地産地消を推進する。

#### ②「ふくしまプライド。」への理解醸成

収穫体験や生産現場の見学など上記メニューに関連する食育活動を通し、子どもたちに生産者の努力などを理解してもらう機会をつくり、生産者の情熱や誇り（「ふくしまプライド。」）への理解醸成を図る。

### 2.これまでの実績

■ R4、R5年度とも、県内の小中学生、幼稚園、保育所、認定こども園の児童・生徒・園児等約7万人に対し県産食材費を支援。各施設で工夫を凝らした食育活動を実践した。

#### 例① 伝統野菜の収穫体験



会津伝統野菜「立川ごぼう」を使った給食と、生産者の畑で立川ごぼう掘りを体験する坂下東小児童

#### 例② 地元特産品との出会い



田村市滝根町で養殖されている「福うなぎ」を活用した給食と、養殖場を見学して福うなぎに触れる滝根小児童

### 3.R6年度の予定

#### ① 地産地消の推進

県内全域の学校等からの活用要望が多いことから、**支援人数を児童・生徒等約84,000人に拡大**し、地産地消のより一層の推進を図る。

#### ②「ふくしまプライド。」への理解醸成

今年度事業からメニューや食育活動の優良事例を数施設選定し、**生産者の情熱や誇り、当事業の活動内容を収めた短編動画を複数制作**。YouTubeや県のホームページ等で公開するとともに、教材としての活用を促す。

# 県産農林水産物を通じた食育推進について (②食育実践サポーター派遣事業)

農産物流通課

## 1.目的

あらかじめ登録した食育実践サポーターを学校などの要請に応じて派遣し、子どもたちに古里の恵みや地域の食文化などの理解促進を図り、**古里の農林水産物への愛着を育み**、子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

### 食育実践サポーターとは？

食育体験や伝統野菜などの伝承活動を実践する  
地元の農林水産物に精通した食の専門家や生産者など

**【R5実績】**

■派遣実数：117名 ■対象人数：2,341人

## 2.これまでの実績

### 例① 古里の恵みを学ぶ



- 対象：郡山市谷田川小学校の6年生
- 食育実践サポーター：フードコーディネーター
- 地元産野菜や果物の魅力、野菜のルーツ、生産者の思いなどを学び**、古里の恵みの大切さを学んだ。

### 例② 伝統野菜への理解を深める



- 対象：相馬市立八幡小学校の3年生
- 食育実践サポーター：生産者
- 伝統野菜のさといも「相馬土垂(そうまどだれ)」の植付けから収穫まで体験**し、地域ならではの伝統野菜への理解を深めた。

## 3.R6年度の予定

### 例① 地域ならではの食材を知る

地元のおさかなマイスターが、小学生を対象に、**地元産ホッキ貝を使用したホッキ飯の調理実習を行う**など、地元ならではの食材への気づきと地産地消の大切さへの理解を深める。

### 例② 古里の農産物への愛着を育む

地元の生産者が、小学生を対象に、**年間を通して田植え～稲刈り～餅つきまで一貫して指導を行い**、米づくりの苦労や収穫の喜びを学び、古里の農産物への愛着を育む。